特集　地域とともに歩んで

北海道介護福祉学校

【問い合わせ】
北海道介護福祉学校
☎72-6060

おかげさまで創立30年

昭和63年の創立以来、29年連続100％の就職率を誇る町立北海道介護福祉学校。栗山中学校の東に位置し、2年間で介護に必要な知識や技術を学び、国家資格「介護福祉士」の習得を目指す介護福祉士養成校です。昭和63年、国内で初めて認可された養成校のひとつとして開校し、今年で30年を迎えました。

今、日本では超高齢社会により介護を必要とする方が増え続けています。一方で、介護の職を目指そうとする人材が不足し、深刻な社会問題となっています。そのような状況下でも、介護福祉学校はこれまで2100人を超える介護福祉士を輩出し、町内はもとより近隣自治体、道内の介護福祉士の人材不足を補う重要な役割を果たしてきました。

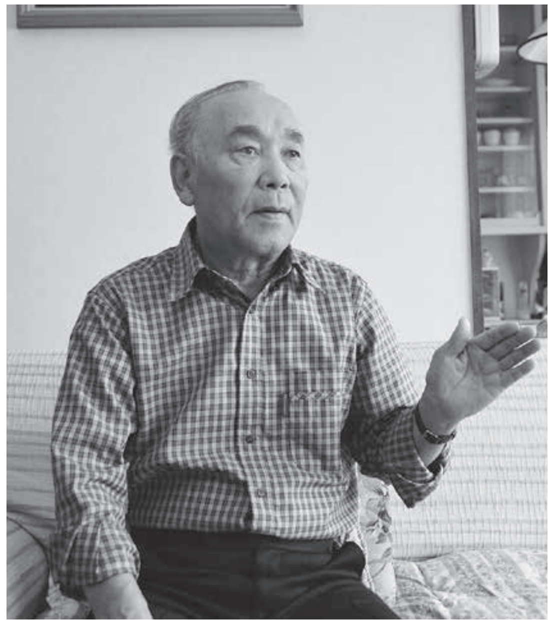
福祉のまちの象徴でもある介護福祉学校。設立から今日まで、同校に関わりのあった方々は、今どのような思いを寄せているのでしょうか。

今月号では、5人の方から話を聞き、これまでの歴史などを探っていきます。

北海道介護福祉学校の沿革

昭和63年3月
介護福祉士養成施設指定（厚生大臣）
昭和63年4月
仮校舎の青少年会館で開校式
中央公民館で第1回入学式
平成元年1月
新校舎を新築
平成3年3月
専修学校認可（文部大臣）
女子学生寮が完成
平成5年3月
社会福祉主事養成施設に指定
平成8年12月
講堂完成
平成9年9月
フィンランド共和国「カヤーニ看護介護短期大学」との交換留学事業開始
平成10年4月
レクリエーションインストラクター課程の認定校となる
平成20年9月
創立20周年記念式典を実施
平成27年3月
卒業生が2000人を突破
平成30年1月
国家試験を養成校として初受験

多くの関係者の協力で開校



昭和62年、当時の厚生省は近い将来訪れる高齢社会に対応すべく、社会福祉士法および介護福祉士法を制定しました。

昭和63年4月の法律施行に伴い、国家資格を取得できる専門学校の開校に向け、全国で多くの福祉系専門学校並びに短大が、厚生省に認可申請をしました。

当時、本町も企業誘致や学園誘致などを展開していたところ、札幌市のＩＴ企業がいち早く開校の話を持ちかけてきました。

結果的に町立校としての開校となりましたが、それに向けての専任教員の確保や学生募集、条例などの整備、地元をはじめ札幌市、旭川市、帯広市の3市に出向しての入学試験、仮校舎の準備など、時間のない中で一生懸命取り組んだことが思い出されます。多くの関係者のご協力をいただき開校できたことを、あらためてとても感謝しています。

Profile
北海道介護福祉学校初代事務局長
高田　政一さん（80歳）
昭和62年11月より学園対策室室長として、学校の創立に大きく貢献。創立後は介護福祉学校事務局長として計5年間勤務。

就職率100％を誇る卒業生の存在が今でもずっと誇り

平成元年から非常勤講師をしています。1期生から学生たちを見てきましたが高卒者から社会人経験者まで幅広く、授業への真剣度はとても高いと思います。私は授業だけでなく多くの学生の悩みを聞き指導してきました。人の「幸せ」について、町の行事に参加することの意義、ルールやマナーなど、学生の成長の全面的なフォローをしてきたつもりです。学生たちは2年次の実習を終えるころ、驚くほど成長した姿を見せてくれます。とてもうれしい限りです。

卒業後は個人の特性を生かし一日一日を大切に「創意工夫」の人生を歩んでほしいと思います。また、学校で学んだ知識・技術を生かし、人に明るさを分け与えられる介護福祉士として活躍してほしいと思います。

今でも卒業生が私を見かけたら必ず声を掛けてくれます。学生たちの成長と卒業生たちの就職率がずっと100％であることが私の誇りです。

Profile
北海道介護福祉学校非常勤講師
矢野　美恵さん（81歳）
岩見沢市在住。レクリエーションの科目を担当。授業以外の相談事にも熱心に対応するなど、学生からの信頼が厚い。

さまざまな体験機会の充実を

在学中、１年生の途中でクラスから退学者が出た際、当時の担任の先生が言った「どうして誰も声を掛けてあげなかったの！」の言葉が卒業して27年たった今でも記憶に残っています。
少子高齢化による介護福祉士の人材は確実に減ってきていますが、高齢者の人口は増えています。年齢に関係なく「困っている人」に何か手助けできないかと考えている方へ、一歩踏み込んで介護に入門できるような仕組みづくりがあっても良いのではないでしょうか。福祉のマチだからこそ、初任者研修や生活援助従事者研修の受講機会を設けたり、実習施設以外にもさまざまな施設を体験できる機会や働きかけなどがあったりすれば、学校としても施設としても有益になると思いますね。

Profile
特別養護老人ホーム 神愛園清田（札幌市）
施設長　深田　伸二さん（46歳）
北海道介護福祉学校３期生。子どもの頃から高齢者のお世話をする仕事に就きたかったという。

伝統を受け継ぎさらなる連携を

実習生の印象は、介護に向き合う姿勢として、真面目で熱心な方が非常に多いですね。
先日も、校長先生がわざわざ新しいパンフレットを届けてくださいました。大変な努力をされながら、学生の確保に努められていると思います。
学校には現場に強い先生方が多数在籍されており、地域との積極的な交流によって町ぐるみで人材を育てていくスタイルは、他の養成校にはない大きな優位点であると感じています。
地域の行事に積極的に参加するなど、素晴らしい伝統をこれからも受け継ぎながら、現場としても介護の魅力が感じられるようさらなる連携を図り、取り組んでいくことができればと思っています。

Profile
介護老人福祉施設 静苑ホーム（江別市）
施設長　市川　茂春さん（45歳）
開校当初から多くの実習生を受け入れ、介護福祉学校との関係性が強い。

教員時代の人脈を生かして

介護職への正しい理解と、今後必要な介護人材育成のためにも、教育は「未来への投資」であると考え、高校だけでなく、５年10年先を見据えて、地域の施設と協力しながら、小中学校への福祉教育の推進を図ることが必要だと考えています。
また、30周年を機に卒業生がさらに連携、組織化し、人材発掘や介護職の正しい理解を促す活動も必要になってくるのかもしれません。
元高校教諭として、教員時代の人脈を最大限に生かし、入学生の確保に向けて、地域の皆さん、自治体、施設、学校などと連携しながら、共に安心して生活できる福祉社会を創造するために取り組んでいきたいです。

Profile
北海道介護福祉学校長
塩﨑　学さん（61歳）
前栗山高等学校校長。退職後の平成29（2017）年度から北海道介護福祉学校の校長に就任。

町ぐるみで「介護の魅力」を考える

今回、５人の関係者に学校への想いを取材しました。共通していたことは、充実した教育カリキュラムは開校当時から変わっていないことでした。
また、優秀な学生が非常に多いとの話もありました。現場に強く学生想いの熱心な先生方をはじめ、アパート暮らしや、アルバイト、ボランティアなどで暖かく見守ってくれるなど総合的なサポートができていることが背景にあげられます。
少子化などによる、ここ数年の急激な学生数減は学校にとって大きな問題となっています。福祉のまちを掲げるうえで、私たちは学校や介護について正しく理解する必要があるのではないでしょうか。子どもたちにも体験を通して「介護に対する正しい理解」を促していくことが大切です。
介護福祉学校が持つ「本当の魅力」を伝えていくには、まず町民皆さんが介護の魅力を考えてみる必要があるのではないでしょうか。
皆さんも全国唯一の町立「介護福祉学校」に興味を持ち、これからのあり方を考えてみませんか。

卒業生の進路（一部抜粋）

進路先	進路の内訳	
	就職先箇所数	人数
栗山町	15	108
札幌市	106	289
空知管内（栗山町を除く）	132	665
石狩管内（札幌市を除く）	55	202
日高管内	37	139
胆振管内	51	140
上川管内	31	76
道外	28	36

一日体験入学のご案内

在校生による介護実演や卒業生の講話、模擬授業「介護におけるコミュニケーション」などを行います。昼食も準備していますので、皆さんお気軽にお越しください。

◆日時
6月23日(土)　午前10時～午後2時

【場所・申込先・問い合わせ】
北海道介護福祉学校
☎⑫6060

5つの旗印を掲げて町政推進

佐々木 学町長 所信表明

平成30年第2回栗山町議会臨時会で、佐々木 学町長が栗山町長就任にあたり今後の町政運営に対する所信を表明しました。

「ふるさとは栗山です。～誰もが笑顔で、安心して暮らすまち～」の実現を見据えた5つの旗印を掲げ、町民皆さんの笑顔が輝き続けるまちづくりへの決意を力強く表明しました。

1「町民誰もが仕事に頑張ることができるまち」の実現

基幹産業の農業をはじめとした各産業の活性化、新町や錦地区など中心市街地の整備、地域資源を活かした観光の振興、魅力ある商店街づくりの推進など、活力みなぎる産業基盤を構築してまいります。

2「長寿社会を健康で豊かに生きるまち」の実現

町民一人ひとりが健幸で生きがいの持てる地域社会の構築、医療水準の確保や将来的な医療環境整備の検討など、町民の安全・安心な暮らしを守るまちづくりを進めてまいります。

3「子どもたちの夢・希望が広がるまち」の実現

地域資源を活かしたふるさと体験教育やキャリア教育の推進、子育て家庭の負担軽減や安心して子どもを産み育てられる環境づくりの推進など、子育て世代を全力でサポートするまちづくりを進めてまいります。

4「栗山が放つ魅力でひきつけるまち」の実現

本町が誇る豊かな自然環境や歴史的建造物などの保全・継承・活用の推進、若者・子育て世代が移住・定住しやすい環境づくりなど、自然と伝統文化を体感できるまちづくりを進めてまいります。

5「やさしさの絆で支え合うまち」の実現

栗山町自治基本条例の基本理念に基づく情報共有と町民参加のさらなる充実、将来を見据えた町内会・自治会区域の再編支援、地域と連携した防災対策の強化など、町民総参加で未来を築くまちづくりを進めてまいります。

私に託された、これからの4年間、家族である町民皆さんに何かあれば真っ先に駆けつけ、頑張っている方がいれば激励に向かい、何かを成し遂げようとする時にはいっしょに汗を流す、そのような町長でありたいと思います。

「ふるさとは栗山です。～誰もが笑顔で、安心して暮らすまち～」実現のため、私の持てる全てを傾け、全力で町政に取り組んでまいりますので、町民並びに議員皆さんの特段なるご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

町長就任時宣誓

佐々木 学町長は、所信表明の後、栗山町自治基本条例第14条の規定に基づく、町長就任時の宣誓を行いました。

宣誓

私は、先人が守り育ててきた歴史、文化、伝統を引き継ぎ、主権者である町民の参加による自律したまちづくりを推進するという本条例の基本理念に基づき、「ふるさとは栗山です。」と町民誰もが誇りを持ち、いつまでも住み続けたいと思うことができるまちを実現するため、公平、公正かつ誠実に職務を執行することを誓います。

平成30年5月17日

栗山町長　佐々木　学

議会の動き

平成30年第2回栗山町議会臨時会で次の議案が審議され、全て可決・同意されました。（5月17日開会）

議案

▼特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

財政健全化の観点から、平成12年度より実施している特別職の給料等の独自削減の期間を、平成31年3月31日まで延長するものです。

▼副町長の選任について

平成30年5月18日からの任期で、三浦　匠氏（松風4）が選任されました。

▼固定資産評価員の選任について

三浦　匠氏（松風4）が選任されました。

報告

▼平成29年度栗山町一般会計補正予算（第9号）の専決処分について

歳入歳出予算に5880万2千円を追加し、総額を82億9591万6千円とするもので、主な内容は、歳入では町税や地方交付税などの確定見込み等による補正、歳出では財政調整基金積立金の追加等に係る補正の専決処分です。

▼栗山町税条例の一部を改正する条例の専決処分について

▼栗山町都市計画税条例の一部を改正する条例の専決処分について

以上2件の条例は、地方税法等の一部を改正する法律による関係部分の条例改正に伴う専決処分です。

新副町長に三浦　匠氏

新たな副町長に、三浦　匠氏が選任され、平成30年5月18日から就任しました。三浦氏は、昭和63年4月に栗山町役場に奉職。経営企画課主幹、若者定住推進室長、また、横断的な政策課題および政策上の重要案件を担当する総括職などを歴任。現在52歳。

就任あいさつ

地方自治を取り巻く環境はますます厳しさを増し、全国的にも人口減少社会となった今日、本町も人口減少・少子高齢化が急速に進行し、それらに起因したさまざまな課題が山積する、これまでにない厳しい局面を迎えております。

このような厳しい状況の中、こうしてこの場に立ち、あらためまして副町長の職責の重さを痛感しております。佐々木町長の補佐役としてしっかりとお支えをし、町長が進める「栗山新時代を切り拓き、誰もが笑顔で安心して暮らすまち」の実現に向けて、町民の皆さんのご意見をお聞きしながら、私自身、身を粉にして全力で努めてまいります。